

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 3月 19日提出

所 属	職 名	氏 名
日本語・日本文化 教育センター	教授	平 弥悠紀
研 究 題 目	〔1〕日本語の音象徴語についての研究 〔2〕留学生に対する日本語教育	
研 究 成 果 の 概 要	<p>〔1〕日本語の音象徴語についての研究</p> <p>音象徴語の語基について、2拍語基から便宜的に語基の第2拍がラ行音であるものを独立させ、AR型(2拍語基で第2拍がラ行音)、AB型(2拍語基で第2拍がラ行音以外)、A型(1拍語基)の3つに分類することによって、従来の研究では明らかにし得なかった特徴を知るべく、これまで研究を行ってきた。過年度は、近代的な意味での国語辞書の最初のものと言われている『言海』(1889-1891年刊行)に採録された音象徴語について、更に、『言海』への痛烈な批判から編纂された山田美妙の『日本大辞書』(1892-1893年刊行)について調査を行い、それらの辞書に採録された音象徴語の見出し語についての特徴を見た。2014年度は、『言海』の音象徴語の語積についての調査を行った。『言海』における音象徴語の語積は「語別+表記+語義+漢ノ通用字」といった要素から成り立っており、擬音語、擬態語で、それぞれ語積にパターンが見られるので、擬音語、擬態語別に、パターン分析を行った。それによって、個々の音象徴語が明治期においてどのように用いられていたか、その実態を解明するとともに、更には近代辞書の語積がどのように成立していったかを明らかにしたいと考え、現在も調査を続けている。</p> <p>〔2〕留学生に対する日本語教育</p> <p>①本学における日本語教育では、漢字語彙教育に重点を置いているが、コロケーションを重視した、漢字語彙教材を用いて、上級前期レベル、上級後期レベルにおいて、より効果的な漢字語彙の教授法について、実際の授業の中で工夫を図った。</p> <p>②中国人留学生を対象とした大学院のゼミにおいて、宮沢賢治の作品を扱い、個々の作品における音象徴語の特徴を調査するとともに、中国語にどう翻訳すべきかという問題について、数種の翻訳本を比較することを通して考察を行った。2014年度に取り扱った作品は、『銀河鉄道の夜』、『注文の多い料理店』、『風の又三郎』、『セロ弾きのゴーシュ』である。『セロ弾きのゴーシュ』については継続調査中である。</p>	